

誰もが安心して生きられる社会の実現に向けて ～ラオスの事例から考える～

はじめに

ラオスでの経験は、現在生きる社会を俯瞰するきっかけを与えてくれた。ラオスでは多くの少数民族が生活をしているが、教育現場では母語と異なるラオ語が話されるために、多くの生徒が学習上の困難を抱えている。現在、日本でも外国にルーツを持つ生徒が増えていることもあり、同様の課題を抱えている人が多くいるため、ラオスの事例から考えるべきことは多い。また、ベトナム戦争中に落とされた不発弾の処理のために現在もラオス国内で多くの人々が尽力をしているのを知ることは、戦争の悲惨さ、また平和構築の重要性を再認識することにつながる。ラオスの事例から日本社会の現状との類似性を考え、自身にできることを具体的に考え、行動に移す姿勢を養うべく本教材を試作した。

この教材の使い方

- ・外国にルーツを持つ生徒が安心して教育が受けられるようにするためにどのように人や社会が変容する必要があるかについて考える。
- ・平和の大切さを再認識し、実現するために自分にできる具体的な行動について考える。

全体のねらい

- ・グローバル化の中、すべての人に開かれた教育を実現することが難しいことを認識し、そのために言語教育や情報端末の利用等、課題解決のために必要な学びの在り方を模索させる。
- ・戦争が未来の人の生活をも苦しめうることを理解し、平和のために必要なことを考える中で平和実現において自分たちにもできることが多くあることを理解させる。

アクティビティ1 「この違いは何を生む？」

●概要

各グループに作業のための指示書を配布し、書かれる言語・情報端末の使用の可否・はさみ等の道具の使用の可否をそれぞれ変えて指定し、最終的な作業の完成のスピードで順位をつける。

教育の平等を実現するためには何が不十分だったのかを挙げさせる。

●ねらい

外国にルーツを持ち、異なる母語を持つ生徒にとって現在の学習環境にどのような課題があるかを体験し、それを解決するために必要なことは何かを考える。

●主な対象

中学生～高校生

●用意するもの（6グループで行う場合）

- ・パワーポイント① (P145)
- ・筆記用具（マジック等）：グループ数分

- ・準備物（グループごとに配布しやすいよう、封筒に以下の物をまとめておく）：グループ数分
 - ・指令書(1) (P144)：グループごとに入れる内容を変える。
 - ・はさみ：3つのグループの封筒に1つずつ入れる。残りのグループの封筒には入れない。
 - ・指令書(2)：パソコンやスマホ等の情報端末の使用許可が書かれた紙を3つのグループの封筒に1枚ずつ入れる。残りのグループの封筒には入れない。
 - ・白い紙：グループ数分（すべてのグループの封筒に1枚ずつ入れる）

●所要時間

45～50分

●すすめ方

学習活動・内容・問い合わせ	留意点（ポイント）
1. ラオスで行われている教育の現状について説明する。(10分)	解説 (P144)、パワーポイント① (P145) を参照。
2. 【この違いは何を生む？】 クラスの生徒を6グループに分け、グループに筆記用具と予めセットした準備物①を渡す。生徒たちに「今から指令書に書かれた作業を遂行するように。完成した班から提出するように。」と伝える。	パソコンやスマホを使用できる班には「翻訳ソフト」も使用して良い旨を伝える。
3. 生徒はグループに配られた指令書に沿って、封筒に入っている物品を使って作業を進める。(10分)	
4. 作業を終了させる。それぞれのグループの指令書の内容を発表し、どんな違いがあったかを認識したのち、何が不平等だと感じたかを問いかける。(5分)	現実社会と照らし合わせて、「言語、機器の使用的有無、道具があるかどうか、教育を受けているかどうか（外国語教育の充実）」などに言及させる。
4. 現在、日本で勉強する外国にルーツをもつ生徒がどのような困難を抱えているかを説明する。(10分)	中退率の高さや大学進学率が低いことについて言及する。
5. 日本の学校で外国につながりをもつ子どもが取り残されることなく学習ができるようにするためにはどのような環境が必要か、教育制度、教員、ともに勉強する児童生徒という三つの立場から考える。(10分)	個人で考え、グループ、最後は全体の前で発表させる。
ふり返り グローバル化が進行する中で、日本の教育には様々な課題があることを知る。誰もが安心して学べる環境の在り方を模索し、実現することは共生社会の実現にもつながるということを指摘する。(5分)	

●解説

ラオスでは少数民族が多く暮らしているが、公用語はラオ語のみであり、それゆえに母語と異なる言語で授業が行われるために少数民族の国語や算数等教科の得点率はラオ族よりも低くなっている現状がある。小学校で初めてラオ語に触れる生徒も多い。ラオ語が卒業後の大都市での就労機会の獲得にもつながるため学習は必須である。

指令書(1)

※ 6グループに下の I ~ VIのいずれか一つの指令書が渡るように封筒に入れておく。また、グループによってはスマホやタブレットの使用を許可する。

I

封筒に入っている紙を三角の形に切り、カレーの作り方を書いてください。

II

封筒に入っている紙をハートの形に切り、卵焼きの作り方を書いてください。

III

Cut the paper in the envelope into squares and draw instructions on how to make a hamburger.

IV

Cut the paper in the envelope into an oval shape and scratch the instructions for making spaghetti with meat

V

ຕົດເຮັດໃນອອງເປັນຂູບກົມແວະແຕ້ມ
ໃສໝັນກ່ຽວກັບວິທີການເຮັດ
Oyakodon.

VI

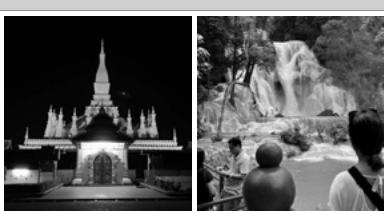
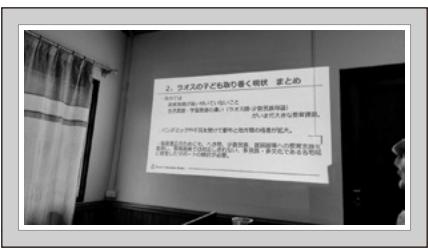
ກະລຸນາປະໄວ້ເຮັດໃນອອງບໍ່ໄດ້ຕົດແວະ
ຂູນວິທີການເຮັດ stew.

(指令書Ⅲ～Ⅵの日本語訳)

- Ⅲ 封筒に入っている紙を四角に切り、ハンバーグの作り方を書いてください。
- Ⅳ 封筒に入っている紙を楕円形に切り、ミートソーススパゲティの作り方を書いてください。
- Ⅴ 封筒に入っている紙を丸形に切り、親子丼の作り方を書いてください。
- Ⅵ 封筒に入っている紙を切らずにそのままにしてシチューの作り方を書いてください。

パワーポイント①（見本）

※データはウェブ上からダウンロードしてください。

<h3>多民族国家で暮らすとは</h3>	 <p>1. 面積 24万平方キロメートル 2. 人口 744.3万人（2022年、ラオス統計局） 3. 首都 首都ビエンチャン 4. 民族 ラオ族（全人口の約半数以上）を含む 計50民族 5. 言語 ラオス語 6. 宗教 仏教</p>	
		
		
		
	<h3>各班対抗ミッション</h3> <p>ミッションを達成した人から代表者は仁木のもとへ。 課題は班によって異なります。</p>	<p>I. 封筒に入っている紙を三角の形に切り、カレーの作り方を書いてください。 II. 封筒に入っている紙をハートの形に切り、卵焼きの作り方を書いてください。 III. Cut the paper in the envelope into squares and draw instructions on how to make a hamburger. IV. Cut the paper in the envelope into an oval shape and scratch the instructions for making spaghetti with meat sauce.</p> <p>不平等な点が三つあったが、それは何か？</p>
		
		

アクティビティ2 「平和構築のために私たちにできることとは？」

● 概要

SDGsが2030年までの達成を目指していることを挙げ、2030年までに平和構築のために自分たち自身にできることは何かを考える機会とする。

●ねらい

平和構築のための行動は国際機関や国だけが行うのではなく、個々人にできることも多くあるということに気づかせる。

● 主な対象

中学生～高校生

●用意するもの

- ・パワーポイント② (P149)
 - ・筆記用具 (マジック等)：グループ数分
 - ・模造紙：グループ数分
 - ・ふせん：グループ数分
 - ・ワークシート (「平和構築計画シート」) (P148)：人数分
 - ・異なる色のシール：それぞれ複数枚。合計で人数分－1となるように準備する。
 - ・その他のシール：1枚

● 所要時間

45~50分

●すすめ方

学習活動・内容・問い合わせ	留意点（ポイント）
1. ラオスでの不発弾処理の現状について説明する。(15分)	ベトナム戦争時に落とされた不発弾による被害が現在も続いているため、除去の努力が継続されていることを伝える。 (解説 (P148)、パワーポイント② (P149) も参照)
2. 4～5人程度のグループに分かれる。模造紙、ふせん、筆記用具をグループに配布する。	

<p>3. グループ毎に「平和構築のために何が必要か」を考える。各グループに配布されたふせんを使い、一枚につき一つずつ、各自が自分の考えをできるだけたくさん書きだす。(10分)</p> <p>4. グループ内で、各自が自分の考えを発表しながら、ふせんを模造紙に貼り出していく。このとき、個人でできることは模造紙の右側に、個人では難しいことは模造紙の左側に貼るようにする。(5分)</p>	<p>ふせんには、個人レベルから政府や国際機関ができるここまで幅広く書き込むように促す。</p>
<p>5. ワークシート（「平和構築計画シート」）を全員に配布する。模造紙で挙げた意見を参考に、自分たちが今後高校生・大学生・社会人として何ができるかを考え、各自記していく。(7分)</p> <p>→各グループ内で共有する。(3分)</p>	<p>パワーポイント②を用いて、SDGsが2030年までの目標達成を掲げていることを知らせる。(SDGs目標達成の年に自分が何歳になっているかを意識させたい)</p>
<p>6. まとめ (5分)</p> <p>「皆さん、今から目を閉じてください。教室でどんな音が聞こえるが、聞き耳を立ててみましょう。静かにゆったりとした気分を味わってください。その間に皆さんの額を少し触りますが、いいですか？</p> <p>もし、触られるのが嫌な人がいれば言ってください。その人は今から何がおきるのかを黙って観察していてください。」と伝え、生徒全員の額に異なる色のシールを1枚ずつランダムに貼っていく。</p> <p>一人だけ別の色のシールを貼る。</p> <p>「喋らずに仲間を探してください」と指示を出す。</p>	<p>傍観者のグループを作り、クラスメイトの動きを観察し、感じたことを言ってもらう。</p> <p>体に触れられるのが嫌な生徒を傍観者グループに入れるなど配慮する。</p> <p>色が同じ生徒同士で集まってグループを形成する傾向が極めて強い。</p>
<p>ふり返り</p> <p>6. のまとめをもとにふり返りを行う。</p> <p>額のシールの色は人種、宗教、言語、国籍など様々なものに読み替えることができることを指摘し、自分の中に潜在的にそれぞれの違いに応じてグルーピングする傾向があるということに気づかせる。その上で、自分たちが平和構築のために大切にしなければならないことは何かを考え続けることが大切だということを伝える。(5分)</p>	

●解説

ラオスではホーチミンルートを遮断するためにベトナム戦争時に大量の爆弾が投下され、その多くが不発弾として現在も国内に残っている。そのため、毎年何十人もが被害に巻き込まれており、国にとっての大きな課題になっている。(ラオス政府は不発弾の問題をラオス独自のSDGs18番目のターゲットとして設定している。) 不発弾を取り除くために現在除去作業が行われているが、完了までまだ多くの時間を要すると推定されている。

ワークシート（「平和構築計画シート」）（見本）

平和構築のためにできること

HRNO()名前()

1 平和を実現するための行動計画（具体的に）

【高校生として】

【大学生として】

【社会人として】

2 一時間を通して感じたこと。これから実践していきたいこと。

パワーポイント②（見本）

※データはウェブ上からダウンロードしてください。

<p>平和構築のためにできること</p> <p>2024.11.21</p>	<p>豊かな社会の形成のために必要なこととは…</p> <ul style="list-style-type: none">精神的に豊かであること自分も他人も大切に経済的に余裕があること助ける力のある組織がある福祉・医療国籍や民族で差別されない戦争がなく、平和であること	<p>世界地図の赤いところは何を表しているか？</p> <p>世界地図の赤いところは何を表しているか？</p> <p>3500万人の子どもたちが紛争に巻き込まれている</p>
<p>豊かな社会の前提として…</p> <p>平和で安全な社会を実現することが大切</p>	<p>平和構築の大切さについて学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none">UXO VISITORS LAO CENTREに訪問し、不発弾処理について学ぶ	<p>ベトナム戦争（1964～1975年）アメリカが北ベトナムを攻撃 ホーチミンルート</p> <p>北ベトナムから南ベトナムへの武具・物資輸送路</p> <p>数千万人を使用 数千人が死亡</p> <ul style="list-style-type: none">1965年空爆開始爆弾は主にリバーパークに落とされた日々に爆弾により犠牲者ベトナムに入ると多くの爆弾があり1968年2月には平和交渉のためリバーパークを爆破 <p>AP Photo Source: HCMC museum</p> <p>ラオスは空爆を受けることに</p>
<p>現在、戦争終了後も投下された不発弾が8千万個国内に残る</p> <p>一年間で不発弾により40～50人の犠牲者がいる 犠牲者の多くは子供たち</p>	<ul style="list-style-type: none">野原にて遊んでいたら知らずに踏んで爆発させてしまう危険なものだとわからず手にしてしまうたき火をして暖をとっていたら土のなかに不発弾がうまっていて爆発拾った金属を売って生活をしている人が金属をとるために大型の爆弾を解体して爆破する	<p>不発弾を除去するためには数10年から100年かかるといわれる</p> <p>毎日作業が行われる。</p> <p>1200人の作業者が全国1000ヶ所の現場で毎日爆弾の除去が行われている。</p>
		<p>18 LIVES SAFE FROM UXO</p> <p>ຂໍວດທີ່ປອດໄພຈາກ ລະເບີດບໍ່ຫັນແຕກ</p>
<p>戦争は未来にも禍根を残すもの 平和を実現するためにできることは何だろう？</p> <p>2024年のノーベル平和賞に日本被団協 桓兵義廣氏</p>	<p>2030年までの達成目標 24歳になるまでに実現するためには何が必要か？</p> <p>16 豊和と公正を すべての人に</p> <p>SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS</p>	<p>平和を実現するために必要と思うことを付箋に書き、 班の模造紙に貼っていく！（7分）</p> <p>気にするポイント：意見の近いものはまとめて貼る</p>
<p>付箋を分類する（5分）</p> <p>右側⇒自分たちにできること 左側⇒政府など、自分たちよりも大きな組織が動く必要があること</p>	<p>平和を実現するための私たちの行動計画を立てる（7分）</p> <p>高校生として（～18歳） 大学生として（～22歳） 社会人として（23歳～）</p>	<p>各グループで行動計画の発表（5分）</p>
<p>グループの代表者の発表</p>	<p>教員</p> <p>観察グループ</p> <p>観察グループ</p>	<p>感想</p>

おわりに

ラオスへの海外研修を通して、途上国で自身が見聞きし、感じた多くのことは日本での課題を解決するための知恵を多く含んでいるのではと強く感じるようになった。途上国支援の現状を学びたいと考えて参加した本研修であったが、支援を受ける国からも支援する側が学べることは非常に多くある。例えば、ラオスの様々な場面で見られた共助の姿勢は、現代人の孤立を解消する上でのヒントになりうる。他国の現状から積極的に学び、それを生かしてよりよい社会を形成していくこうとするしなやかな心を育てる一助に本教材がなればと願う。

実践事例報告

プログラム作成・実践者

仁木 敦子

学校名

徳島市立高等学校

担当教科

地理歴史

実践教科

ホームルーム

【授業の概要】

(1) 単元のテーマ：平和構築のために自分たちにできることを考える

(2) 単元のねらい

現在各国で紛争が絶えず起こり、多くの子どもたちが巻き込まれており、紛争は未来を生きる子どもたちの平和をも蝕むものであるということをラオスでの不発弾の実態より学び、平和構築の重要性について再認識する。また、自分たちにできることが微力ではあるものの多くあるということに気づかせ、自分の意志で平和構築を実践していこうという姿勢を育てたい。

(3) 概 要

ラオスの不発弾の処理音を聞かせ、この爆発が起こる可能性が日常的にある環境で安心して生きることができるだろうかということを問いかけることから始めた。ラオスでの不発弾処理の現状について概観して平和構築の大切さを確認し、平和を実現するために必要なことをグループごとに分かれて付箋に書き、模造紙に貼っていった。その上で平和構築のための自身のこれからの行動計画を立てた。

(4) 指導上の留意点

平和構築のために必要なことを幅広く挙げさせることで、様々な面から自身にとれる行動を派生させて考え、行動計画を立てることができる。また、額にシールを貼るワーク中にはあえてシールが貼られない観察グループを作り、ゲーム中の他の生徒の様子を客観的に見て気づいたことを言ってもらった。

(5) 授業実践をした上での感想・ふり返り

生徒たちの感想文には「自分たちが平和構築のためにできることはあまりないと思っていたが、考えてみるとたくさんあり驚いた」など、平和のための取り組みを自分事化するきっかけとなったという趣旨のコメントが多くあったように思う。また最後のシールのワークについての感想も多く、「知らないうちに自分と同じ特徴を持つ人を仲間とみなしている自分に驚いた」、「当初はルールがわからなかったこともあり、グループごとに集まるクラスメイトに追従していた。今自分が行っていることは正しいのかどうかを考えることを放棄しており、そのようなことは世の中にたくさんあるのではないかと感じた」など生徒たちにとっても自分たちの潜在意識を疑う機会になったようであった。昨今のニュースでも世界各地で紛争が勃発していることが報道されているが、今を生きる私たちが平和を願う心を失わず、主体的にできることを地道に行っていくことが大切なのだとということを再確認する時間となった。